

YIC 京都ペット総合専門学校 学校関係者評価委員会議事録

会議名	2025 年度第 1 回学校関係者評価委員会
日時	2025 年 6 月 18 日（水） 13:30～15:00
場所	YIC 京都ペット総合専門学校 2 号館 5 階 257 教室
参加委員	公益社団法人 滋賀県獣医師会 会長 石田 龍一様 公益社団法人 京都市獣医師会 副会長 村田 裕史様 一般社団法人 ジャパンケネルクラブ 近畿ブロックトリマー委員会 委員長 西村 恭子様 有限会社 ペットショップモリ 店長 森 貴弘様(オンライン) 株式会社 ひびペットフレンドリー トリミング事業部 事業部長 日野 禎之様 株式会社 Lovely キャリアマネジメント部 部長 森村 遊 株式会社 桂ペットサロン 店長 谷口 優希也様 事務局：佐々木校長、山根管理部長、澤学生支援課長、北村教務課長 オブザーバー：井田学科長、丸山学科長、鳥井（内部監査・IR 戦略室）
議長	石田様
記録者	内部監査・IR 戦略室：鳥井
配布資料	本日の次第、委員名簿、学校関係者評価委員会議題、2022 年度の自己点検評価結果および第三者評価委員会評価結果、教育課程（オンラインの皆様には ZOOM で共有）
進行	
1) 校長挨拶	ご多忙の折、本日はお集まりいただきありがとうございます。平素より大変お世話になっており、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。 はじめに：専門学校の現状と今後の展望 専門学校の体制移行: 2025 年 4 月から、専門学校は全て「単位制」に移行します。これは大学の単位制に近い形であり、「専門学校文科省関係でいきますと全部の学校が単位制に移行しなさいいけない」と佐々木校長が述べています。この移行に伴い、第三者評価の導入がほぼ決定しており、その前に「自己点検評価をしっかりとっておかないと外部の第三者の評価には耐えられない」と認識されています。 自己点検評価と PDCA サイクル 学校は PDCA サイクル（計画・実行・評価・改善）を回し、教育の質向上を図っています。昨年度の自己点検評価の結果を踏まえ、改善を繰り返していく方針です。 学校関係者評価委員会の役割: 専門学校が「職業実践専門課程」の認定を受けているため、自己点検評価に基づく学校関係者評価が必要です。また、教育課程編成委員会においては、企業や団体との連携が義務付けられています。 学校法人また、専門学校の充実の方向に向けて努力してまいります、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。 本日もいろいろ議論いただき学校運営に活かしていきたいので多くのお意見をいただき、誠実に対処してまいります。
2) 関係者評価委員紹介	各委員挨拶
3) 教職員紹介	各教職員挨拶
3) 定員数確認および委員長の選出	学校評価委員会規程第 7 条に基づき、7 名中、全員で参加で本委員会は成立する。委員長は学校関係者評価委員より推薦するところ、新たな評価方法やオンライン開催の為、代理として山根が務める
4) 配布資料等確認	委員会名簿、議案、2024 年度自己点検評価結果

5) 議事	1. 2024 年度の学校状況について報告		
	1.1. 入学者状況の分析 ペット総合科: 過去 5 年間で定員を超える応募数を維持しており、順調です。 動物看護科: 2025 年度の応募数が 58 名と定員 64 名を下回りました。全国的に動物看護師を目指す学生が減少傾向にあることや、3 年制となり国家資格化されたことで「国家試験が難しい」という情報が影響していると分析されています。しかし、2026 年度入学向けの募集活動は現時点では「去年よりは少し多い」状況です。 男女比: ペット総合科、動物看護科ともに例年通りの男女比で、約 1 割が男子学生です。 入学者の学力レベル: ペット総合科: 過去 5 年間で FGH ランク（偏差値が低い、または計測できない学校）からの入学者が多い傾向が続いています。 動物看護科: 2025 年度には、以前は EFGH ランクからの入学者が多かったのに対し、平均的に幅広い学力レベルの学生が入学しており、特に「偏差値ランキングが出せない学校」（定時制・通信制高校など）からの入学者が増加傾向にあると認識されています。 1.2. 在籍状況と退学者の分析 退学率: 学校全体で 347 名中 17 名が退学し、退学率は 4.8%でした。目標としていた「3%未満」を上回ってしまいました。 ペット総合科: 162 名中 11 名が退学（6.7%） 動物看護科: 185 名中 6 名が退学（3.2%） 退学理由: 最も多い理由は「学生生活不適応」「修学意欲低下」です。特に 1 年生での退学が多く、新しい環境への適応困難やコミュニケーション能力の不足が背景にあると考えられています。また、「入学の時点でこんな感じじゃなかった」というミスマッチも指摘されています。 改善策: 募集活動の時点で、学校生活について「しっかり説明をしていく」ことで、ミスマッチによる退学者を減らす方針です。		
	2. 2022 年度の自己点検評価結果について		
	資料「2022 年度 YIC 京都ペット総合専門学校自己点検評価結果」に基づき以下の項目の報告および取り組み状況と課題・改善策について大村より説明された。 ① 1. 教育理念・目標 ② 2. 学校運営 ③ 3. 教育活動 ④ 4. 学習成果 ⑤ 5. 学生支援 ⑥ 6. 教育環境 ⑦ 7. 学生の受入れ募集 ⑧ 8. 教育の内部保証システム ⑨ 9. 財務 ⑩ 10. 社会貢献・地域貢献 ⑪ 11. 国際交流 2022 年度自己点検評価結果及び第三者評価委員会評価結果についてご報告します。 資料については自己点検評価結果と第三者評価委員会評価結果を紐付けて一覧にしています。非常に多岐に渡りますので、議論すべき項目ををピックアップして主に今回の第三者評価委員会評価結果の不適合の項目について課題としてご覧いただき、課題の取り組みについてご意見をいただきたく、よろしくお願いいたします。		
	2. 2024 年度の課題と重点項目について		
	評価項目	項目	課題と今後の改善
	1. 教育理念・目標		概ね評価は適切であるとした。 課題については業界ニーズや卒業生の動向の把握について、実施方法の検討を進める。 DP 等については卒業時にどのような資格を有し卒業させるかなど学生便覧を新たに作り直すなど行った。改善方策：学生便覧に記載しているが、どのタイミングで周知するのかは検討する必要があるが、教育特色に関する説明を追加する。とした。特に DP で卒業時の資格要件が共通ということもあり、明確でないことを見直し学生便覧を見直しする。学校の特色については入学時にはなく、今後は加えて改善を図りたい。
	2. 学校運営		評価で「不適切」とした講師懇談会の実施後の報告書や会議等のエビデンスとなる議事録の作成が十分整備できていない点を課題として改善に取り組む。また、業界や地域社会等からの意見の収集・分析・応答の仕組ができていないか（苦情及び要請への対応を含む）についてアンケートなど実施可能な総合支援課と協議してすすめる。
	3. 教育活動	3-1 3-2	課題： 3-8 のシラバスなどでできているが、ペットも看護もシラバスはあってもコマシラバスの作成が不十分。 3. 教育活動 ● 評価の課題点:

		。挨拶指導が十分にできていない。 。学生のコミュニケーション能力が課題である。 。授業開始時にシラバス（授業計画書）の公開が間に合っていない。 ●改善策および実施内容: 。授業ルールと挨拶指導の徹底: ▪ 常勤講師がショートホームルームや授業開始前に挨拶指導を徹底し、2～3年間を通じて毎日挨拶を促す。 ▪ 学生と教員の共通認識を持つため、4月開始前に全クラスで学生便覧（学校のルールブック）の該当ページを読み合わせを実施。便覧には「授業の心構え」が記載され、挨拶や不要物の机上禁止などの基本ルールを再確認する。 ▪ 非常勤講師に対しても、4月1日に懇談会を実施し、共通認識を共有。 ▪ 授業態度に関しては、「授業内ルール」を統一し、居眠りや無許可の個人端末使用には2点減点する統一指導を行う。 。シラバス作成と公開の早期化: ▪ シラバス作成時期を調整し、授業開始前に学生へ公開できるよう進捗中。 ▪ シラバスには、科目概要、到達目標、受講条件、教科書、関連科目、成績評価方法、評価の着眼点などを詳細に記載し、学生と共有。動物看護科でも同様にIT教育（スプレッドシート活用）なども盛り込まれている。 ▪ コマシラバス（各回の授業計画書）も作成し、教員間で共有。これにより、授業の質を統一し、緊急時の代理対応も可能にする。コマシラバスには各回の授業タイトル、内容、使用教材、時間配分などを記載。 ▪ シラバスとコマシラバスの進捗状況を、ペット総合科および動物看護科全体で共有する進捗管理シートを作成し、完成目標を設定して確認している。
4. 学習成果		4. 学習成果 ●評価の課題点: 。入学前教育プログラムに取り組めない学生へのフォロー体制が不十分であった。 。問題が解けない学生への対応ができていなかった。 ▪ 動物看護科では取り組まない学生は少なかったが、ペット総合科では取り組めない学生や問題が解けない学生が見られた。 ●改善策および検討内容: 。総合支援課に**「教育支援」部門を新設**し、基礎学力向上の取り組みを行う。 。ペット分野における基礎学力を定義し、その向上に取り組む（検討段階）。 ▪ 定義された基礎学力（案）: ●動物看護科: 語彙力、漢字の読み書き、文章読解能力、文章構成能力（カルテ記入、飼い主との対話）、四則計算（小数、分数、割合、速度計算）、生物、単位（g、μgなど）。国家試験対策として特に重要。 ●ペット総合科: 語彙力、漢字の読み書き、文章読解能力、文章構成能力（顧客対応、手紙作成）、計算（割合、パーセント: 割引、消毒液の希釈など）。ドッグトレーナーには「論理的思考能力」も必要と括弧書きで記載されたが、学力と捉えるべきか疑問も呈された。 。文章読解能力・文章構成能力強化のため、常勤講師が担当する授業で教科書の音読や内容について話し合う授業を展開し、コマシラバスに記載（非常勤講師には未共有、常勤講師から実施）
4. 学習成果	4-5 4-11	4-5, 4-11において企業と連携した卒業生の動向を十分把握できていない。と評価し、卒業生について回答可能な企業へのアンケートをCareer map等を用いて実施する。 卒業生の動向調査はキャリアで行っているが、卒業生全員を対象として実施できていない。 4-11 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているかについては特定の企業だけで就職先へ訪問などができていない。回答可能な企業へのアンケートをキャリアマップの機能で実施する。
5. 学生支援	5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか(またそれはきちんと学生や保護者に周知されているか) →学生自身が進路を切り拓く力を身につけることが課題。 ●上記「4. 学習成果」の項目内で、入学前教育プログラムへの取り組み不足や問題解決能力の低い学生への対応策として、総合支援課に「教育支援」部門を新設し、基礎学力向上の取り組みを行うことが挙げられました。 ●また、学期ごとの評価期間を短縮し、コマ単位での到達度確認を行うことで、取り残される学生を早期に発見し、個別の支援を行う方針が示されました。
5. 学生支援	5-2	学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか) →学生相談のハードルが高いことが課題。担任教員が間に入ることでハードルを低くすることを試みる。

5. 学生支援	5-5 5-9	5-5 卒業生への卒業教育等の支援体制はあるか、5-6 図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか、5-9 授業についてこられない学生に対して、リメディアル教育や他コースの紹介などの支援策を実施しているかについて 5-5 卒業生の支援体制についてペット総合科では実施されていない。また、試験対策等を動物看護科にて実施しているがエビデンスが存在しない。卒業後の支援について課題の抽出と具体的なサポートを検討する。
6. 教育活動	6-5	6-5 施設・備品の環境整備の課題 授業外でパソコンを借りて勉強をしたいという学生の要望に応えられるよう、ノートパソコンの貸し出しのルールを確立できるか。 〈総務〉防火自主点検表をもう少し項目を増やす必要があるが、業務多忙により実現していない。
7. 学生の受入れ募集	7-3	7. 学生の受入れ募集 ● 評価: ◦ 入学志願者数: ▪ ペット総合科は過去5年間、定員を超過している。 ▪ 動物看護科は、3年制移行後の3年間は好調だったが、2025年度は定員64名に対し58名に減少。 ▪ 動物看護科減少の理由: 全国的に動物看護師を目指す学生が減少傾向にあり、国家資格化による試験の難化が情報として広まった影響と推測。 ▪ 2026年度入学募集は現時点では偏調だが、引き続き募集活動に注力する。 ◦ 男女比: 例年通りで、大きな変化はなく、男子学生は約1割程度。 ◦ 出身校の学力レベル（偏差値ランク）: ▪ ペット総合科は過去5年間E～Hランクの出身者が多い。 ▪ 動物看護科は2025年度で各ランクの出身者数が平均的になったが、偏差値が算出できない定時制・通信制高校の出身者が増加傾向にある。 ● 改善策: ◦ 動物看護科の志願者数減少に対し、引き続き募集活動に注力する。 ◦ 入学前の段階で、学生生活への不応や就学意欲低下を招く学生を減らすため、募集時に学校生活や学習内容について「しっかり説明」していく。
8. 教育の内部保証システム	8-2、 8-3	⑧ 8. 教育の内部保証システム ● 評価の課題点: ◦ 自己点検評価の実施が計画性を持って早期に行えていない。 ◦ 教職員全員が自己点検を「自分ごと」として捉える意識改革が必要である。 ◦ 議事録の作成ができていなかった。 ● 改善策および実施内容: ◦ 指示系統の明確化: ▪ 学科長が各教員に自己点検を指示し、学科長がチェックし、教務課長が管理する体制とする。 ◦ PDCAサイクルの確立: ▪ 課題、改善策、結果を明確にし、PDCAサイクルを回していく。 ◦ 議事録作成の習慣化: ▪ 会議の議事録作成を習慣化し、録音データをAI（Chat GPT など）でテキスト変換・保存して活用する。 8-2 適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか（教育内容やカリキュラムを評価しているかまたその評価方法、手段、スケジュールはどのようなものであるか）、8-3 教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているかについて 課題: 8-1、8-2、8-3 においては自己点検評価への取り組み状況が十分ではない。授業アンケート項目・実施頻度、授業参観の実施は十分とはいえない。QU など利用しているが改善策の検証が十分とはいえない。 改善方法等が不十分。授業改善後の改善状況を報告し、改善状況の進捗を確認する。
9. 財務		評価については概ね「適切」とした。
10. 社会貢献・地域貢献		職業実践教育給付金講座の申請で動物看護科3年制を申請し、今年度4月生より対応できる環境を
11. 国際交流		留学生は昨年度卒業生を輩出してから在校生はいない。 ・ 募集開始から広報と教務が連携をとって進めていく。
3. 2024年度の自己点検評価報告書の取り組みへの質問および意見等		
評価項目	項目番号	ご意見（委員）
		回答（事務局）

3. 教育活動		留年はあるのか。	単位制のため厳密な「留年」はないが、単位が取得できない場合は、卒業までに必要な単位を次年度以降で取得することになる。2024年度の動物看護科3年生に、病気療養のため4年目扱いとなった学生が1名おり、未取得単位のみを履修している。 佐々木 単位制では「学年」の概念がなくなる可能性があり、各学校で最低取得単位数などの規定を設ける必要がある本校は詳細なシラバスや内部規定を整備することで、これらの要件をクリアし、大学に近い教育体制へと移行することを目指している。
4. 学習成果		村田 動物看護師の国家試験問題は、読解能力がなければ問題すら理解できないため、非常に重要である。大学でも同様の議論がある	幼少期の音読は学習効果が高いという研究や、認知負荷がかかる一方で理解が深まるという研究もあり、目読よりも理解が進むという成果も報告されている（愛知教育大学の論文などを参照）
		音読が読解力・構成能力向上に繋がる根拠やエビデンスはあるか	
		谷口 ペット総合科の学生は計算が苦手な子が多く、10%オフなどの簡単な割合計算も電卓なしではできない。 SNSの影響で話し言葉のような文章を書く学生が多く、特にビジネスメールや顧客への手紙で不適切な表現が見られる。ビジネスマナーの授業はあるが、他の課題に活かせていない。 従業員との連絡手段について、LINEの使用は増えているが、緊急時は電話が常識と考える職場も多く、トラブルの原因となる	北村 入学時に基礎学力テストは実施しているが、「やりっぱなし」になっていた。今後はその結果に基づき、割合計算など具体的な指導を進める 「分からないことを分からないまま放置して（国家試験）直前になって分からないって言うてる子が年々多くなってる」と述べ、学生が自発的に問題を解決する能力の不足を課題としています。これに対し佐々木校長は、AO入試などで「試験を受けないで入学してくる」学生が増え、勉強の仕方が分からないため、「駒ごとでやっぱこの分かっているか分かってないかを判断していかないと実はいけない」と、細かい単元ごとの評価の必要性を強調しました。
		森 社内連絡はLINEを使い、急用（欠勤など）は電話という運用	
		谷口 社会常識やマナーの指導も重要。親が学生の欠席連絡をしてくるケースもある。 - 分からないことを放置してしまう、自ら解決しようとしないう学生が多い。 - メンタルが弱い学生が多い。言われたことにすぐ落ち込む傾向があり、これが学習やコミュニケーション能力にも影響している。アルバイト経験のある学生の方が、臨機応変な対応力やコミュニケーション能力が高い傾向がある	北村 教務課長: - メンタルや場慣れは「非認知能力」と呼ばれるものであり、学力とは直接関係なく見えるが、学力にも影響すると認識している - ペット関連の学生の弱い部分でもあるため、この点についても対応を検討していく 非認知能力（メンタル、場慣れ）の向上も重要。ショートホームルームで挨拶指導などから始める。
		森村（オンライン参加委員）: - 基礎学力の定義について賛同した。 - 就職先で計算ができないなどの話を聞くため、入学時に簡単な学力テストや、授業の中間テストを導入し、学力不足の学生を早期に発見してサポートする仕組みを提案した 入学時や学期途中に簡単な学力テストを実施し、苦手な学生を早期に発見・支援すべき。それに劣ってる人を早く見つけるというか助けてあげるような考えをしたらいいのかなと思う。	北村 教務課長: - 入学時に基礎学力テストは既に実施していると説明した。 - しかし、その結果を「やりっぱなし」にしている現状を認め、今後は未達成者への指導を強化すると述べた。 - 特に割合計算については、「10%が分からない」という学生がいる現状は問題であり、改善を進めたいと回答した
		森村 スマートフォンを使っの計算やパーセンテージの理解ができない学生がいる現状を指摘した	北村 教務課長 電卓の使い方やパーセントの概念理解から対策を進めると回答した。 改めて、文章構成能力、文章読解能力、割合、メンタル、社会常識の指導に注力していく方針を示した

6) 総評	4. 2024 年度の指摘点への改善状況と 2025 年度の課題・重点項目			
	ペット総合科			
	評価項目	項目	課題と今後の改善	
	ペット総合科		指摘点: トリマー上級資格取得を目指す学科の設置が可能か。 ◦ 改善状況: 教員の人数不足により、JKC の養成機関条件を満たせないため、現時点での学科設置は困難である。 ◦ 指摘点: 新卒者のベーシック作業（トリミング）にかかる時間の長さについて。 ◦ 改善状況: 次回の教育課程編成委員会で議題として検討する	
	5. 2024 年度の指摘点への改善状況と 2025 年度の課題・重点項目に対するご意見			
	評価項目	項目番号	ご意見（委員）	回答（事務局）
	6.教育環境		特になし	
	6. 2024 年度の指摘点への改善状況と 2025 年度の課題・重点項目			
	動物看護科			
	動物看護科		動物看護科: ◦ 指摘点: 動物看護師の役割や倫理観が学生に伝わっていない。教員間での職業倫理観の共有ができていない。 ◦ 改善状況: ▪ 職業倫理を指導する「動物看護学概論」を常勤教員が担当する体制に変更。 ▪ 教員間の共通認識として**「愛玩動物看護師の倫理綱領」を導入**し、非常勤講師にも共有の上、授業や学校生活全体で倫理観に基づいた指導を実施する。 ◦ 指摘点: ペット総合科で導入されている動物福祉学やアニマルセラピーを動物看護科にも導入できないか。 ◦ 改善状況: 動物看護師養成所の要件科目と内容が重複する部分があるため、事業内容を精査し、指導可能な教員確保を検討中。次回第 2 回教育課程編成委員会で回答予定。	
7) 今後の予定	7. 2024 年度の指摘点への改善状況と 2025 年度の課題・重点項目に対するご意見			
	評価項目	項目番号	ご意見（委員）	回答（事務局）
	6.教育環境		特になし	
	佐々木 京都ペット総合専門学校は、単位制への移行という大きな変化を控える中で、教育の質保証と学生の成長を最重要課題として捉えています。シラバスの詳細化、基礎学力の向上、非認知能力（メンタル、社会常識、コミュニケーション能力）の育成、そして PDCA サイクルの確実な運用を通じて、これらの課題に取り組んでいく方針が示されました。特に、多様化する学生の学力レベルに対応するための個別指導や、授業内での能動的な学習機会の創出が今後の鍵となります。			

以上